

財務ハイライト

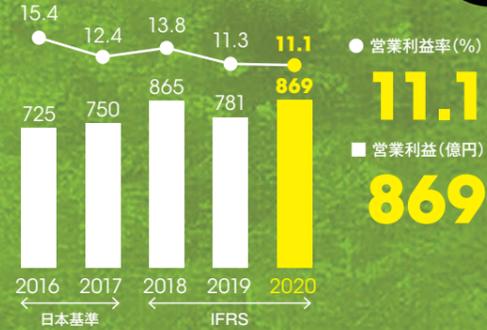
2016-2017年度は日本基準
2018-2020年度はIFRSの数値を記載

売上収益



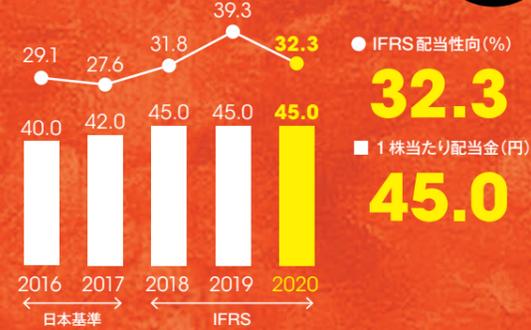
2017年度に米国塗料メーカー、2019年度に豪州とトルコの塗料メーカーを買収したことに加え、中国を中心にアジアでの汎用事業の拡大が奏功し着実な成長を果たしており、2020年度はコロナ禍にも関わらず、4年連続の増収、過去最高の売上収益を達成しました。

営業利益 / 営業利益率



2019年度の営業利益は減損損失などの一過性要因により減益となる一方、2020年度は買収効果や中国事業の成長により、過去最高益を達成しました。2020年度の営業利益率は、営業増益であったものの、グローバル成長に向けた人材強化などに伴う販管費率の上昇により、前年並みとなりました。

1株当たり配当金 / IFRS 配当性向※1



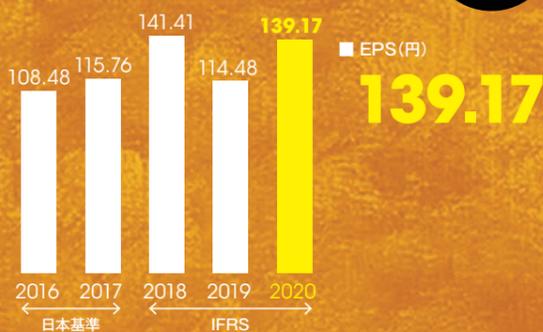
安定的かつ継続的な配当を基本方針とし、配当性向30%の維持を目標に掲げています。2019年度は減益となるものの、安定配当の方針に基づき45円を維持しました。2020年度の配当性向は32.3%となりました。

自己資本利益率 (ROE) / 投下資本利益率 (ROIC)※2



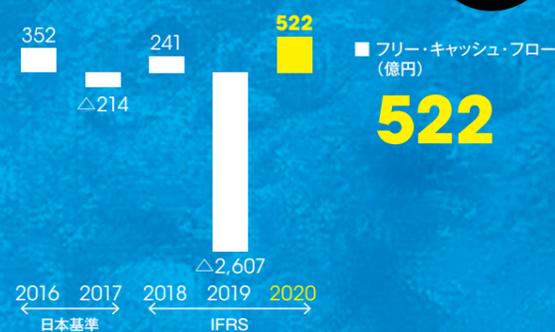
2019年度のROEは当期利益の減少により前年比で低下したものの、2020年度は8%に高まるなど、直近のROEは7~8%の水準で推移しています。ROICは、2019年度と2020年度にM&Aやアジア合併事業100%化に伴う有利子負債の増加、株主資本の増加によって投下資本回転率が低下したことで、2019年度以降低下しています。

1株当たり当期利益 (EPS)



1株当たり当期利益は、営業利益などの利益項目の推移に概ね比例しています。2019年度は営業減益の影響により減少した一方、2020年度は営業増益の効果もあり、コロナ禍にも関わらず大きく増加しました。

フリー・キャッシュ・フロー



塗料業界は設備投資負担が軽くキャッシュ・フローを創出しやすいため、比較的プラスで推移する傾向にあります。2017年度と2019年度は海外塗料メーカーを買収したことで、マイナスに転じましたが、営業キャッシュ・フローは毎年順調に推移しており、2020年度は再びプラスとなりました。

株主総利回り (TSR)



増配基調や株価上昇により、TSRは年々上昇しています。2019年度以降は、配当を据え置いたものの株価が好調に推移した結果、2020年度は比較指標である配当込みTOPIXを2倍程度上回りました。

ネット・デット※3 / ネットD/Eレシオ



塗料業界は比較的設備投資負担が軽くキャッシュ・フローを創出しやすいため、ネット・デットはマイナス推移してきましたが、2019年度はM&Aに当たり金融機関から資金を借り入れたことで、大きくプラスに転じました。ネット・デットの増加に伴い、2019年度のネットD/Eレシオは上昇しました。

※1 2016-2017年度の配当性向は、日本基準数値にのれん償却額を調整し、算定 ※2 ROIC(日本基準): 税引後営業利益÷(ネット・デット+純資産合計) ROIC(IFRS): 税引後営業利益÷(ネット・デット+資本合計) ※3 ネット・デット: 有利子負債(社債及び借入金(流動・非流動)+その他の金融負債(流動・非流動))-手元流動性(現金及び現金同等物+その他の金融資産(流動))